

正月の休みに読むつもりで積み上げてあった本の山が三つ。その山のうち二つは半年も前から読み切れなくてだんだんに溜まったもので、いくら時間がたつぷりあってもよほど頭の具合が良くならなければ、ということとはそういうことはまず望めないということですが、どんどん処理するのが困難な類の本です。が、残りのひとつの山には推理小説も三冊加えてあつて、これはこの休みに一気に読み飛ばせる筈の、正月お楽しみ番組のもりでした。

暮れの三十日からの八連休ですから、これだけ時間があれば普段なかなか読めないヤツにじっくり取り組んで、さらにその間の息抜きがてら、ついでに第三のグループも処理できるとおもうと思っていたのに、十日経った今、ちゃんと読めたのは推理小説三冊だけでした。困ったことに山は依然として三つ残っていて事態は少しも変わっておりません。趣味は読書・・が聞いて呆れる有様です。

正月に勉強などとてもとでも、息抜きしか出来なかつた私の反省の弁などはこの際どうでもいいことでして、皆さん、評判にたがわず「高村薫」は凄いですよ。小生の読んだのは「マークスの山」と「地を這う虫」の二冊だけでしたが、いやあ感服しました。ほんとに力量のある作家です、お勧めします。昨春秋、「宮部みゆき」が登場して来て、初めて読んだ時も一読三嘆で皆さんに吹聴しましたが、今度もそうです。この二人、小生の老後の密かな楽しみになりそうです。ちなみにもう一冊は小生知らなくて友人に貰って初めてその名を知った「原 寮」という人の「私が殺した少女」でした。これもまた大した力作でありました。

いやはや知らないうちに才能のある人たちが続出しているのですね。驚きました。楽しみです。老後の閑暇は心配ありません。